

マイクロン テクノロジー (MU)

【セクター】 半導体

信買

【市場】 NASDAQ

信売

【企業概要】

アイダホ州に本社があるグローバルな大手半導体企業です（DRAMやNAND等）。米国をはじめ、日本や台湾、シンガポールに研究開発拠点ががあります（2024年8月末）。2024年8月期の売上高比率はコンピュート&ネットワーキング・ビジネス・ユニット38%、モバイル・ビジネス・ユニット25%など。テクノロジー別ではDRAMが70%、NAND29%、その他1%です。地域別では米国が52%、台湾19%、中国（香港除く）12%、日本3%、その他アジア太平洋5%、欧州3%、香港4%など。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

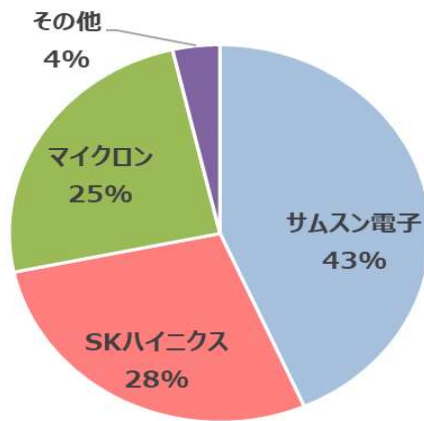
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
23.8期	15,540	-4,862	-4.45	0.46	40.2	-12.4	68.7
24.8期	25,111	1,472	1.30	0.46	40.7	1.7	65.0
25.8期（予）	35,535	7,860	6.90	0.52	46.5	15.0	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）会社資料、BloombergのデータよりSBI証券作成

【主要指標】

DRAM市場シェア（2022年）



（出所）BloombergデータよりSBI証券作成

売上高（百万ドル）と伸び率（%、前年同期比）



（出所）会社資料、BloombergデータよりSBI証券作成

【会社の見方】

売上高成長が続いています（2024年12月-25年2月期まで6四半期増収継続）。売上高成長だけでなく、利益面もEPSが改善しておりファンダメンタルズ堅調です。会社側は同社史上で最も競争力があるポジションにいるとの認識を示しています。特に市場から注目されているのはHBM（広帯域メモリー）で、会社側は2025年のHBMの潜在市場規模が350億ドル超（従来予想は300億ドル超）になるとして、市場規模見通しを上方修正しています。なお、25年分の同社HBMは完売済みで、26年分も好調な需要があるとの見方を示しています。競合品に対して電力消費の面で優位性があります。

【見通し・注目点】

2024年12月-25年2月期はAI需要を背景に売上高が前年比38%増の80.5億ドル、EPSは同3.7倍の1.56ドルとなりいずれも市場予想を上回りました。HBMは出荷が計画を上回り、HBM売上高が10億ドルを突破しました。同社CEOは「3-5月期はデータセンター及び消費者関連市場でのDRAMとNANDの需要成長により、四半期ベースで過去最高の売上高を見込む。25年度でも過去最高の売上高と収益性の大幅向上見通し」とコメント。一方、3-5月期の粗利益率見通し（中間値）は市場予想を下回りました。

本レポートに関するご注意事項

・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客さまが損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。

・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。